2026年度　非住宅木造建築技術者育成講習

環境都市実現のための木造化・木質化推進あいち協議会

平成22年の「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」制定以降、公共建築物の床面積ベースの木造率は、法制定時の8.3%から令和元年度には13.8%に上昇しました。
一方で、民間建築物については、木造率の高い低層の住宅以外にも木材の利用の動きが広がりつつあるものの、非住宅分野や中高層建築物の木造率は低位にとどまっています。
こうした背景の元、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、令和3年10月1日に施行されました。
これにより、法律の題名が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に変わるとともに法の対象が公共建築物から建築物一般に拡大しました。当協議会としては非住宅建築の木造化に向けて、ソフト・ハード両面から木造に強い建築技術者を育成するために連続講座を実施します。講座の構成は、木造設計の初心者・経験者を問わず基本事項、最新の現場状況などを盛り込み講座を実施します。また非住宅木造建築の各種専門分野から講師を招き講演会も３回企画しています。併せて非住宅木造建築の現地研修も2回予定しています。全編を通じて非住宅木造建築に関する多面的なノウハウを学んでいただけます。

回	日程		講師	講座番号	講座タイトル	講座内容
1	8月1日	土	村上　淳史	1，2，3	木造住宅の技術を生かしたコスト競争力のある非住宅木造建築の構造設計	木造住宅に使用する材料や金物、加工（プレカット）などは長年にわたり熟成されてきました。その技術をうまく利用することで、コスト競争力のある非住宅木造を建築することが可能となります。木造住宅用の技術や地域材をうまく利用するにはどのようなことに気を付けるのか、そのポイントを解説いたします。
			住林OneClick	4	LCAとは	近年は、自社だけでなくサプライチェーン全体のCO2排出量を把握して削減することが求められています。 そのため、サプライヤーを含めたデータ収集や分析のベースとしてLCAが使われるケースが増え、「取引条件としてLCAデータ提出を求める」といった動きも広がりつつあります。
2	9月9日	土	久保久志	5，6，7	試行錯誤の中大規模木造施設づくり	中大規模木造施設の設計を進めるにあたってのポイントを設計事例を中心に学ぶ。講義前半では作手小学校・つくで交流館を中心に利用者とつくる木造施設づくりについて複数の事例からレクチャー。講義後半では星の杜小学校を中心に防耐火など各分野毎の勘所を交えて木造施設づくりについてレクチャー。最新事例として、令和６年４月に法改正された「火熱遮断壁等」を用いた日本最大級の木造研修施設である名工建設総合技術研修センターも紹介。
			イケダコーポレーション	8	木造用塗装	「含浸型・自然系の木材保護塗料」は、塗膜を厚く作るタイプではなく、木に浸透して保護するタイプなので「10年無塗り替え」といった長期保証をうたう造膜型とは考え方が少し違います。外装向けオイルは、含浸塗料は数年ごとのメンテナンスを前提に、経年変化を楽しみながら使う仕上げとして紹介しています。
3	9月26日	土	安井　昇	9，10，11	都市に火事に負けない木造建築をつくる	2019年、2022年、2025年と木造防耐火に関する法令・告示改正が続いており、木造でも中大規模建築物をつくる手法が広がってきた。本講義では、法令の変遷や上手い使い方を紹介するとともに、法令の根拠となる実験動画を見ながら、火事に負けない木造建築のつくりかたを学びます。
			吉野石膏（株）	12	防耐火・耐力壁	国交省告示の例示仕様およびEXプログレ等の個別認定構造一覧（外壁・間仕切・準耐火構造など）を参照し、各工法ごとの認定番号と部材構成（せっこうボード厚さ・枚数、EXプログレやタイガーEX系面材、断熱材、外装材など）を解説します。
4	10月21日	土	大倉靖彦	13，14，15	中大規模木造建築の計画・監理	最新事例をもとにプロジェクト解説
			YKK AP（株）	16	中大規模木造サッシ	ビル用サッシ 鉄骨造やRC造などの非木造建物を前提にしたサッシです。中高層での使用や大開口、高い風圧・外力を想定しており、枠や部材断面が太く、剛性と耐風圧性を重視した構造になっています。 木造用サッシ 戸建てや低層木造住宅を前提としており、木造壁の中に納まるように専用の枠形状や取付方法が設計されたサッシです。原則として3階建以下、軒高9m以下での使用を想定した性能ランクになっています。 これらの基本を押さえ、中大規模木造の建物のサッシについて学びます。
5	11月7日		坂口大史	21，22，23	LCA及びLCOO2への対応を見据えた中大規模木造建築の設計	2028年から順次導入されるLCAやLCOO2への対応を踏まえて、BIM接続、カーボンニュートラル、戦略的な木造活用や木材利用に関する実践的な知識や設計方法を身につける。
		土	YKK AP（株）	24	省エネ適判	事務所、ホテル、病院、学校、店舗、工場など非住宅を対象に、建築物省エネ法の適合判定（省エネ適判）向け計算を説明します。
6	12月5日	土	辻充孝	25，26，27	脱炭素時代を生き抜く設計手法～非住宅建築物における温熱・省エネ設計の要点～	2050年カーボンニュートラル実現に向け、非住宅建築物でも省エネ適合義務化やZEB化への要求が急速に高まっています。本セミナーでは、脱炭素時代の社会的背景を踏まえ、単なる基準クリアにとどまらない「快適性と省エネ性を両立する設計の大切さ」を解説。さらに、意匠計画の初期段階から手戻りなく実務を進めるための具体的な「温熱・省エネ設計の流れ」を、ステップを追って分かりやすくご紹介します。
			ニチハ（株）	28	SHK制度とは	SHK制度は「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」の略称で、一定以上の温室効果ガスを出す事業者に対して、自社の排出量を計算して国に報告し、その情報が公表される仕組みです。温暖化対策推進法に基づく制度で、企業の排出量の「見える化」と削減を促すことが目的です。近年の改正では、木材を使うことで二酸化炭素を長期間ため込む「炭素貯蔵」の効果も、このSHK制度の中で評価していく方向性が整理されています。
7	9月	土	現地見学	29	東海市～四日市市　見学会	
8	未　定		現地見学	30	施設見学会	
9	10月23日	金	現地見学	17，18	（株）山西　プロウッドフェア	木とともに暮らす住まいづくりの提案を掲げた、建材・住設メーカー等と連携したフローリング等の木材製品、断熱材や化粧板、制震ダンパー他の建材、非住宅木造関係の新構法等の展示会を見学。
10	1月30日	土	支援研修	31	構造支援事例発表	
			五十田　博	32		
11	9月16日	水	恒次　祐子	19，20	建物の内装木質化	近年、環境配慮やウェルビーイングを重視したライフスタイルへの変換が求められる中、内装木質化による効果の検証を通した「木材の良さ」に関する科学的なデータを基に木材を活かした建物づくり、空間づくりについて講演いただく。